

2014年6月11日 全8頁

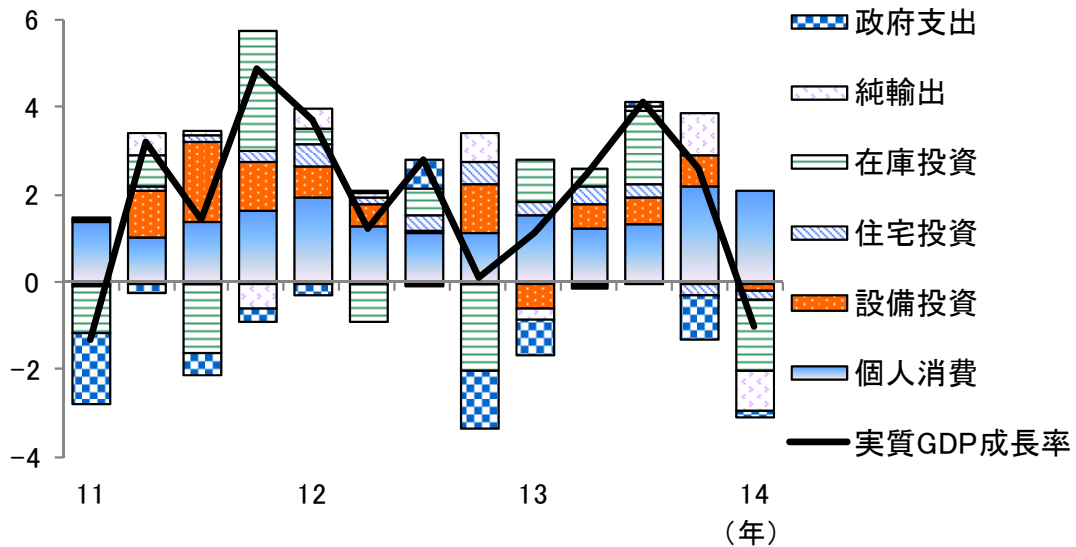
アメリカ経済グラフポケット(2014年6月号)

2014年6月9日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



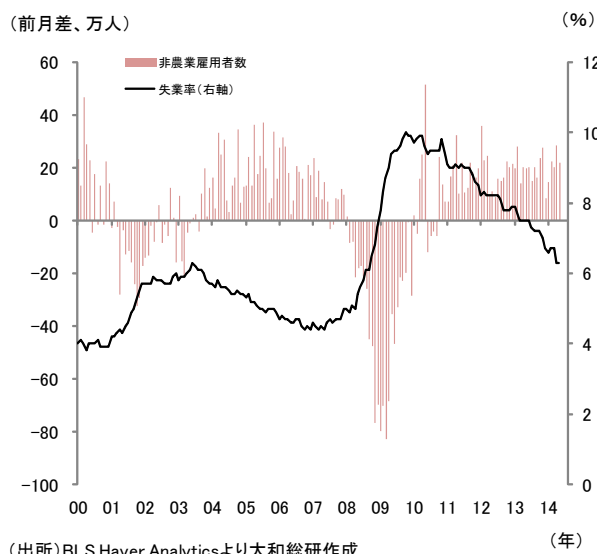
(前期比年率、%、%pt)	2012			2013				2014
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	4.1	2.6	-1.0
個人消費	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	2.0	3.3	3.1
設備投資	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7	4.8	5.7	-1.6
住宅投資	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2	10.3	-7.9	-5.0
政府支出	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4	0.4	-5.2	-0.8
輸出	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0	3.9	9.5	-6.0
輸入	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9	2.4	1.5	0.7
寄与度								
個人消費	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2	1.4	2.2	2.1
設備投資	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6	0.6	0.7	-0.2
住宅投資	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	-0.3	-0.2
在庫投資	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4	1.7	-0.0	-1.6
政府支出	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1	0.1	-1.0	-0.2
輸出	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0	0.5	1.2	-0.8
輸入	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1	-0.4	-0.2	-0.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

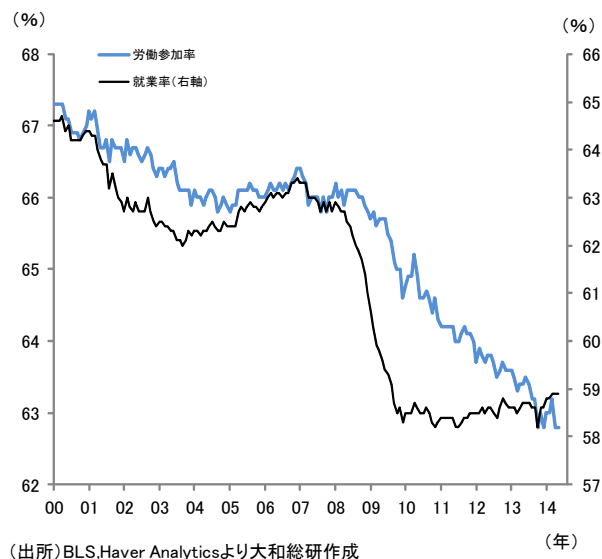
雇用環境¹

- ◆ 5月の失業率は前月と同水準の6.3%であった。
- ◆ 非農業雇用者数は、前月差21.7万人増であった。前月から増加幅が縮小したが、4ヵ月連続で20万人超を保っている。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は19.2万人増であった。

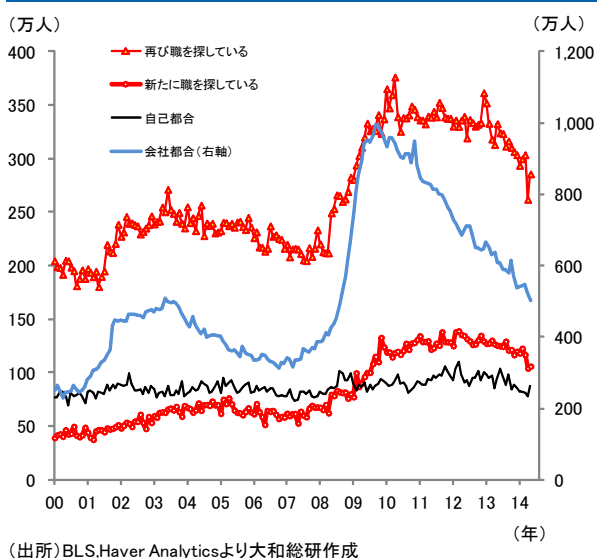
非農業雇用者数と失業率



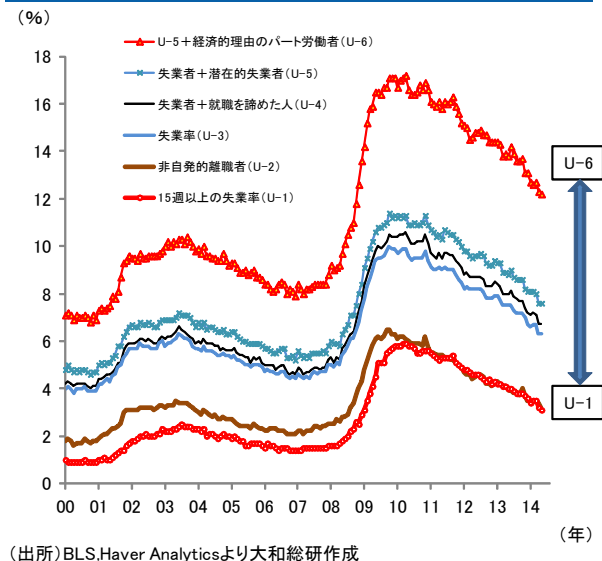
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

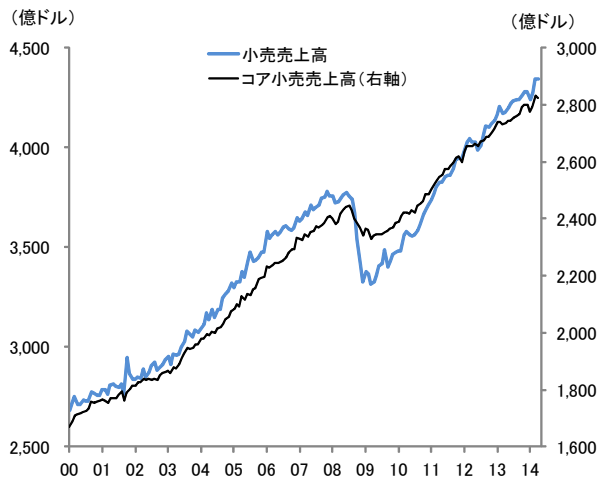


¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「景気後退前の水準に戻った米国の雇用者数」(2014年6月9日) 参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20140609_008621.html

個人消費

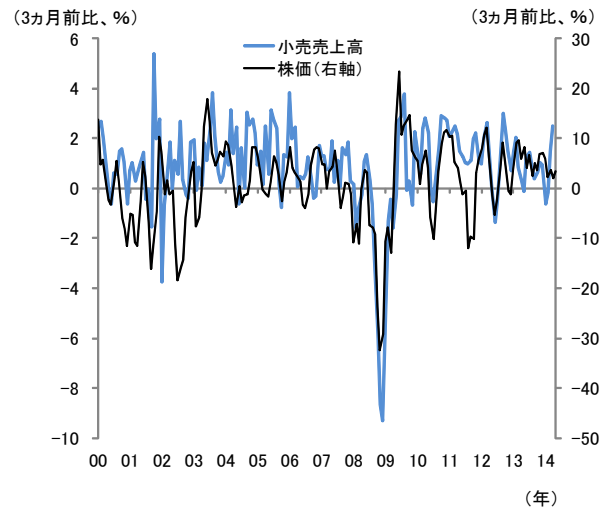
- ◆ 4月の小売売上高は前月比0.1%増で、悪天候の反動増が出たとみられる前月からは増加幅が縮小した。コア小売売上高は同0.2%減少した。
- ◆ 5月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の84.1から81.9に低下した。
- ◆ 5月の自動車販売台数は前月比4.6%増で、年率換算では1,677万台であった。3ヵ月連続で1,600万台を超え、2006年7月以来の水準になった。

小売売上高の推移



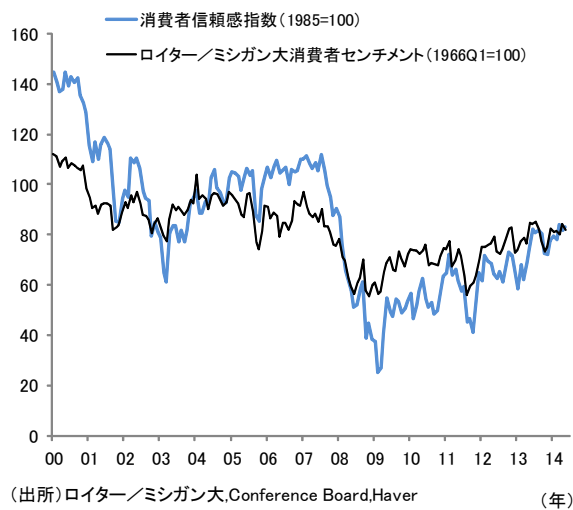
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



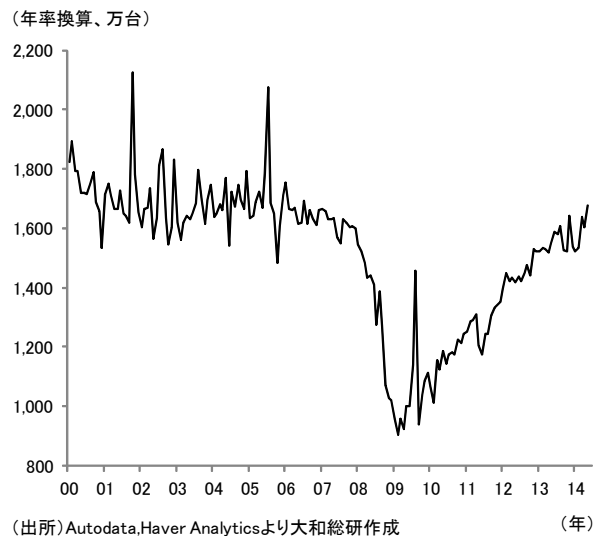
(注)株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

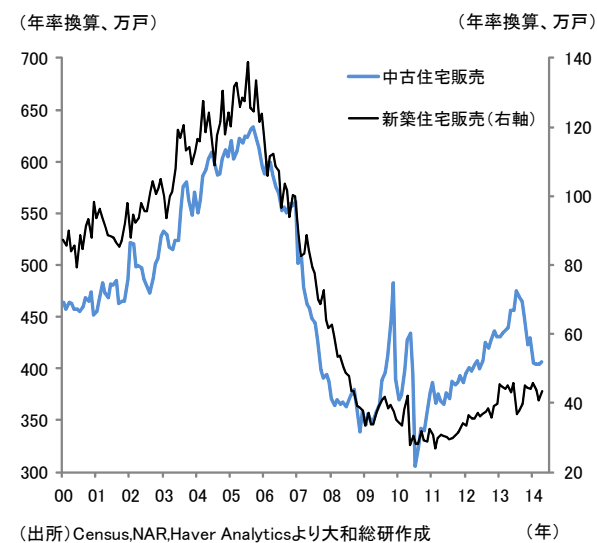


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

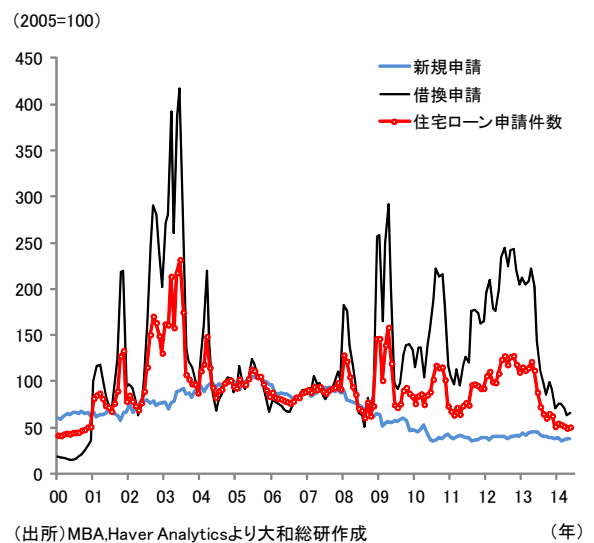
住宅市場

- ◆ 4月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比13.2%増と大幅に増加し、年率換算は107.2万戸であった。3ヵ月連続で増加し、2013年11月以来の高水準となった。
- ◆ 4月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比0.5%増で年率換算406.0万戸であった。2013年12月以来、4ヵ月ぶりに増加した。
- ◆ 4月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比6.4%増と3ヵ月ぶりに増加し、年率換算で43.3万戸であった。
- ◆ 3月の住宅価格は、緩やかに上昇。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2008年4月以来の高水準になった。

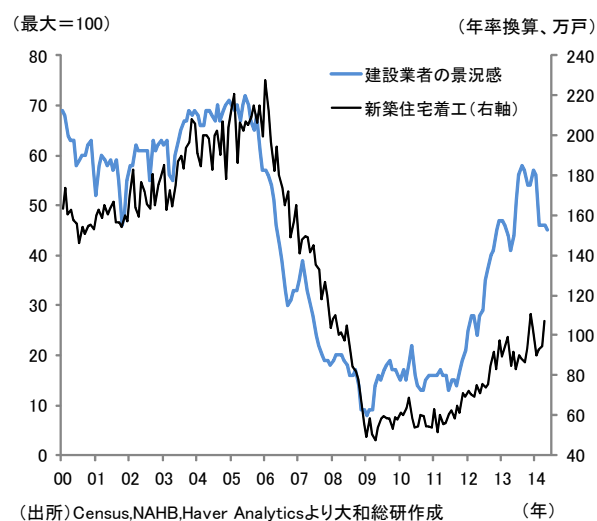
住宅販売（一戸建て）



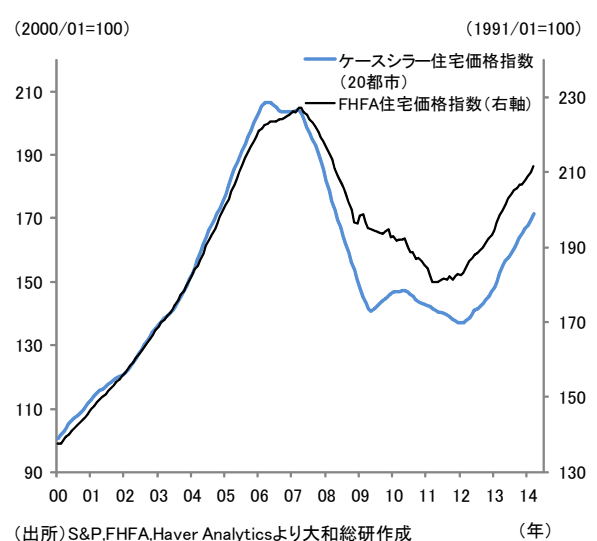
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



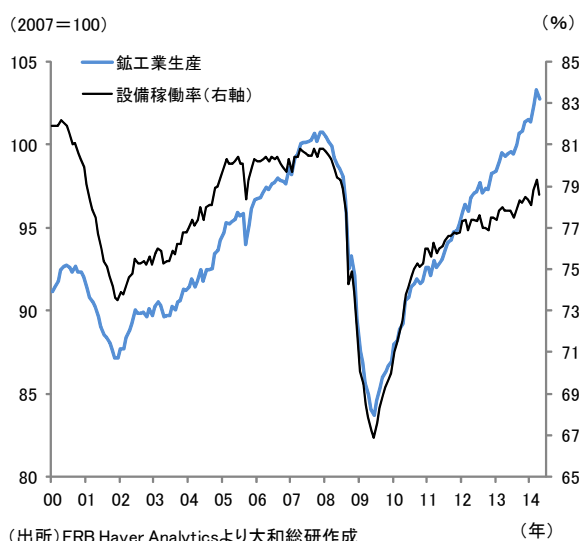
住宅価格



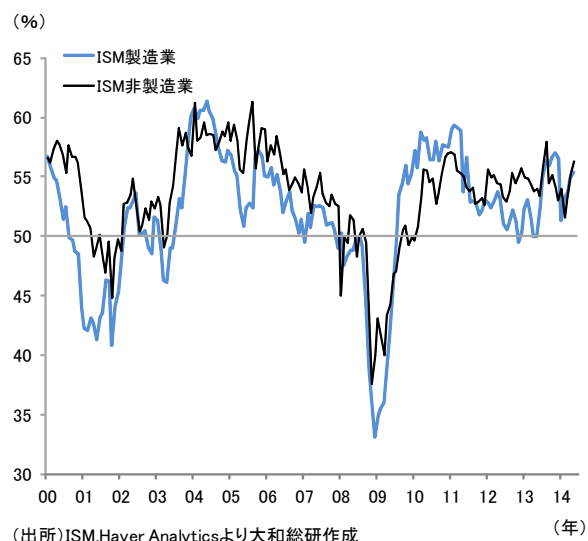
企業動向

- ◆ 4月の鉱工業生産指数は前月比0.6%低下し、3ヵ月ぶりの低下となった。指数全体の約75%を占める内訳の製造業も同0.4%低下し、3ヵ月ぶりに低下した。
- ◆ 4月の国防・民間航空機を除く資本財受注は減少に転じ、前月比1.2%減となった。
- ◆ 5月のISM製造業指数は前月比0.5%ポイント上昇し、4ヵ月連続の上昇となった。非製造業指数も同1.1%ポイント上昇し、2013年8月以来の高水準となった。両指数ともに悪天候の影響から回復し、企業の景況感は改善が続いている。

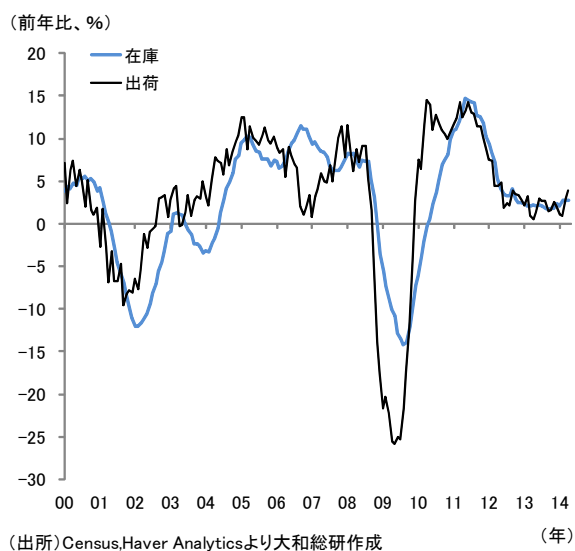
鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



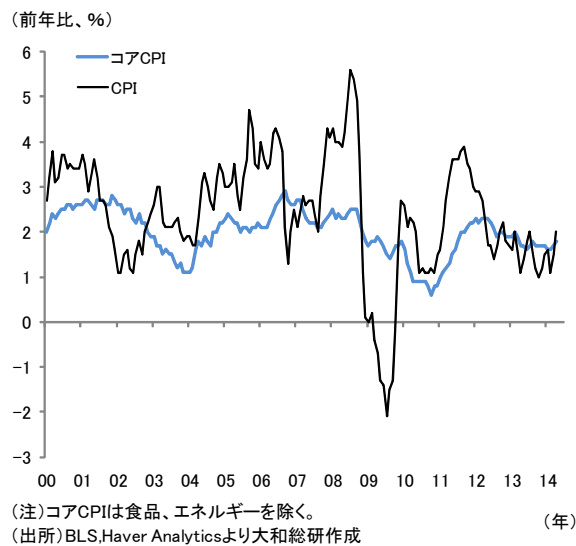
耐久財受注



物価動向

- ◆ 4月のCPI（消費者物価指数）は前年比2.0%増で、コアCPIは同1.8%増。
- ◆ 5月の2年先及び5年先期待インフレ率は、ともに安定した推移が続いている。
- ◆ 5月末のWTI原油先物価格は102.71ドル/バレルと、4月末の99.74ドル/バレルから上昇した。

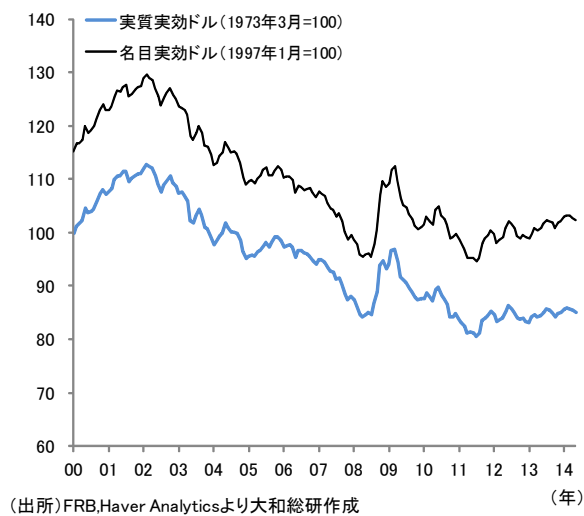
消費者物価指数



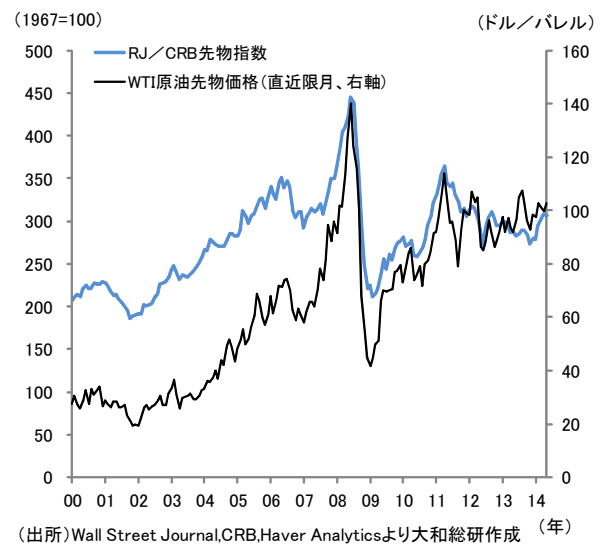
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



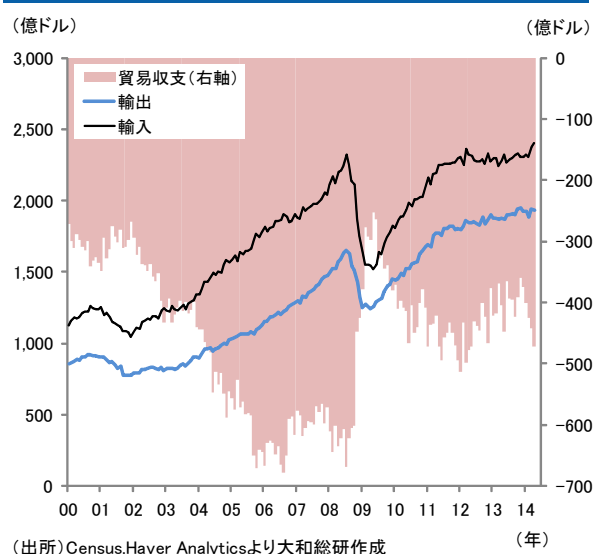
コモディティ価格



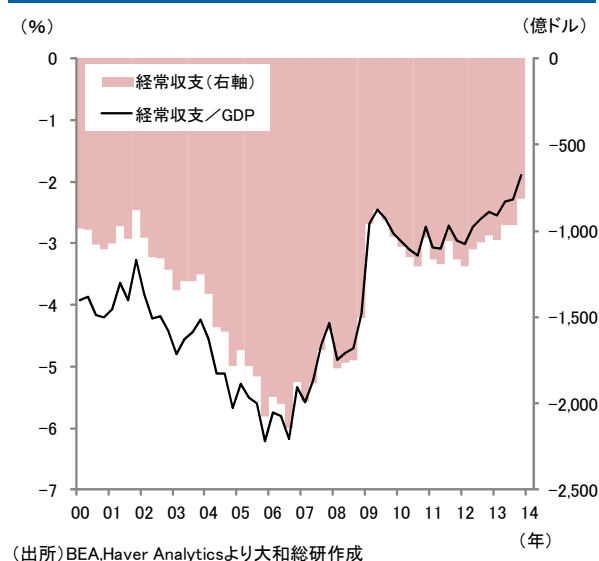
輸出入・経常収支

- ◆ 4月の貿易収支（財・サービス）は約472億ドルの赤字で、前月から赤字幅が6.9%拡大した。
- ◆ 輸出は前月比0.2%減少し、輸入は同1.2%増加した。
- ◆ 地域別（財）では、日本、欧州、中国向けの輸出が前年比で増加し、それぞれ前年比5.2%増、同2.5%増、同0.9%増となった。輸入は、欧州からの輸入が前年比12.5%増で、中国からの輸入も同9.6%増加した。しかし、日本からの輸入は同5.7%減少し、7ヵ月連続の減少となった。

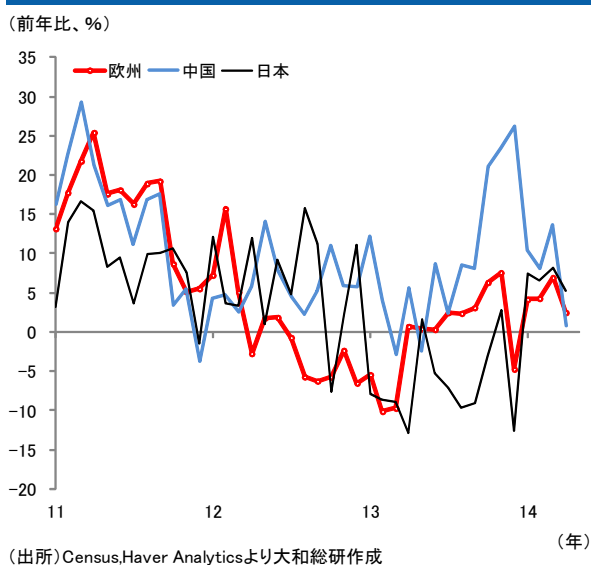
貿易収支動向



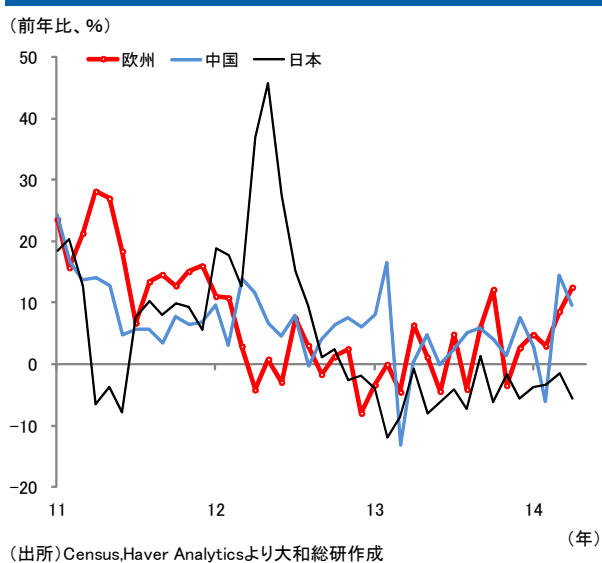
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



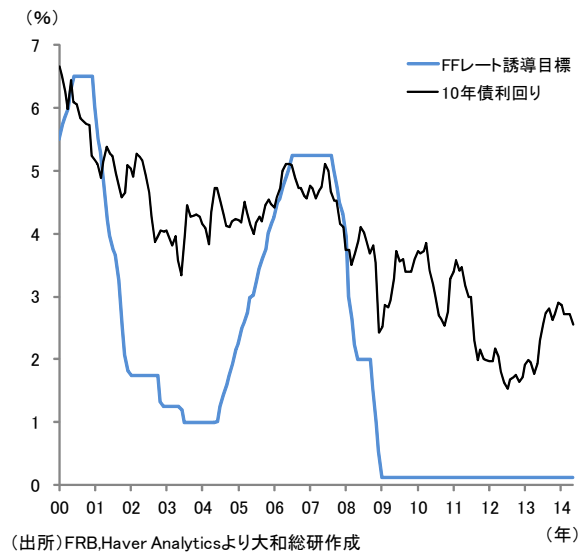
国・地域別輸入動向



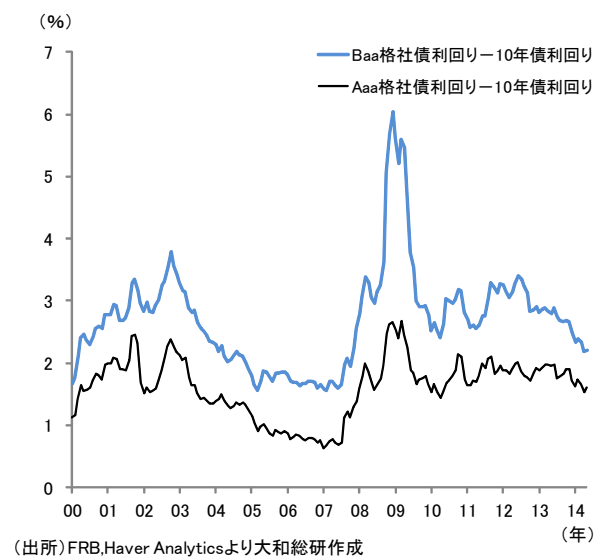
金融・財政

- ◆ 5月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.56%であり、2013年6月以来の低水準となった。
- ◆ 4月のFOMCにおいて、QE3（量的緩和第3弾）の縮小が発表され、5月からの毎月の買い入れ額は100億ドル減少し、450億ドルとなった。FRBの資産残高はQE3を受けて増加が続いており、直近の6月4日の週平均が約4兆3,700億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、赤字縮小の傾向となっている。

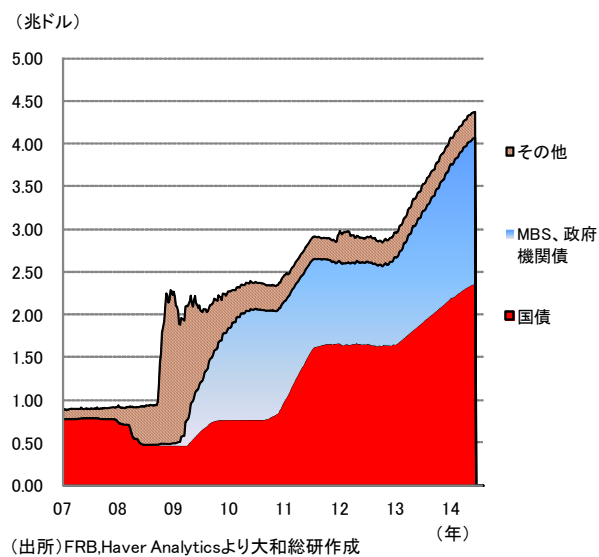
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

